

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果と学位論文等審査基準の対応マップ

		卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の学習成果		
		1	2	3
学位論文審査基準	1	◎	◎	◎
	2	◎	◎	◎
	3	◎	◎	◎
	4	○	○	◎
	5	○	○	◎
	6			

人文科学研究科臨床心理学専攻博士前期課程の学位論文を評価するためのルーブリック

	尺度5 (S) (特に優秀な成績)	尺度4 (A) (優秀な成績)	尺度3 (B) (要求を満たす成績)	尺度2 (C) (合格と認められる最低の成績)	尺度1 (D) (不合格)
研究課題の明確性及び先行研究を踏まえて的的確性	問題設定の意図・意義が非常に明確であり、先行研究の検討及び吟味が十分になされている。	問題設定の意図・意義が明確であり、先行研究の検討及び吟味が十分になされている。	問題設定の意図・意義が概ね明確であり、先行研究の検討及び吟味が適切になされている。	問題設定の意図・意義に若干の曖昧さがあるが、先行研究の検討及び吟味は適切になされている。	問題設定の意図・意義が不明確であり、先行研究の検討及び吟味が不十分である。
課題を追求する上で方法論の適切性	方法論が非常に明確で、資料の収集、分類、分析に関する方法も非常に適切である。	方法論が明確で、資料の収集、分類、分析に関する方法も適切である。	方法論が概ね明確で、資料の収集、分類、分析に関する方法も適切である。	方法論にいくつかの問題点はあるが基本的に適切であり、資料の収集、分類、分析に関する方法も基本的に適切である。	方法論が不適切で、資料の収集、分類、分析に関する方法も不適切である。
研究方法及び調査方法の妥当性	研究・調査方法が非常に妥当であり、信頼性と有効性が高い。	研究・調査方法が妥当であり、一定の信頼性と有効性がある。	研究・調査方法が概ね妥当であり、一定の信頼性と有効性がある。	研究・調査方法に改善点はあるが、基本的には妥当である。	研究・調査方法が妥当ではなく、信頼性と有効性に欠ける。
結論の妥当性	結論およびそこに至る論理展開が非常に妥当で、説得力がある。	結論およびそこに至る論理展開が妥当で、説得力がある。	結論およびそこに至る論理展開が概ね妥当で、一定の説得力がある。	結論およびそこに至る論理展開に改善点はあるが基本的に妥当で、一定の説得力がある。	結論およびそこに至る論理展開が妥当ではなく、説得力に欠ける。
研究の独創性と研究分野への貢献	非常に独創的であり、研究分野への顕著な貢献をしている。	独創的であり、研究分野への貢献が認められる。	独創的な要素があり、研究分野への貢献がある程度認められる。	いくつかの独創的な要素はあるが、貢献は限定的である。	独創性に欠け、研究分野への貢献が不十分である。
その他					